

Press Release

セキュリティフライデー株式会社

tel 0466-26-5666 / fax 0466-26-1130

2004年4月5日 発表

ギガビットネットワーク対応、情報漏洩対策ソフトウェア Windows ファイルアクセスを解析 / 記録する「VISUACT™ -G」を発売

セキュリティフライデー株式会社(藤沢市藤沢89-1 社長:佐内大司)は、ギガビットネットワークに接続された企業内の Windows ファイルサーバへの社員のアクセスを監視できる情報漏洩対策ソフトウェア「VISUACT-G」(ビジュアクト・ジー)を開発、2004年6月より販売を開始いたします。

企業からの情報漏洩事件が多発し、企業における情報管理のあり方が問われています。来年4月の個人情報保護法の施行もあり、多くの企業で社内ネットワークにおける社員のネットワークアクセスを監視するニーズが高まり、ネットワークパケットを収集・記録するシステムなどの導入が検討されています。その一方で、企業のネットワーク環境は、ギガビットネットワークの急速な普及や、ファイルサーバの集中化という変化が起きています。

このような変化の中で、企業内ネットワークにおいて、機密情報などの重要なファイルへのアクセスを監視しようとすると、次の問題点が浮き彫りになります。

- メールやウェブアクセスは監視することができるが、Windows サーバ上のファイルへのアクセスは、プロトコルが非公開且つ複雑で、アクセス内容を把握することができない。
- ギガビットネットワークは高速に大容量のデータが流れるために、全パケット記録方式でデータを長期間分保存するのは、記憶容量の面から難しい。

この2つの問題点を解決したのが、「VISUACT-G」です。

VISUACT-G は、セキュリティフライデーが開発した Windows ネットワーク解析ソフトウェア「VISUACT」の技術を高速化し、Windows のファイルサーバへのアクセスパケットをリアルタイムで解析し、どの社員がどのファイルを「読んだ」、「書き換えた」といった、アクセスの内容をログファイルに出力します。また、高速フィルタリング機能を搭載したことでギガビットネットワークをパケットキャプチャーし、リアルタイムで解析処理を行うことができます。このVISUACT-G を利用することで、集中化されたファイルサーバへのアクセス監視が可能となり、情報漏洩につながる可能性があるファイルサーバ上のオリジナルデータへのアクセスを監視 / 記録することができます。出力されるログファイルはテキスト形式で、全パケット量の約1 / 1000(参考値)のファイルサイズとなり、250G バイトハードディスクを搭載した場合で1ヶ月



～2ヶ月、さらに圧縮ファイルを利用すると6ヶ月～1年分のログを記録することができギガビットネットワーク環境でも、実用的な運用ができます。(ログファイルのサイズは参考値です)

VISUACT-G の特長

- マイクロソフトネットワーク(SMB/CIFS)を利用したファイルアクセスを解析し、どこの誰がいつ何をしたのかという情報としてログを出力。
- ネットワークパケット監視型で、サーバやクライアントへのソフトウェアのインストールが不要。
- ギガビットネットワークに対応。
- 長期間のログ保存が可能。
- VISUACT ビュアによるグラフィック表示。

仕様

推奨動作環境

OS	Windows XP
CPU	ペンティアム 4 3.0GHz 以上
メモリ	1G バイト以上
ハードディスク	100G バイト以上
ネットワーク I/F	10/100/1000M Ethernet
ドライバー	WinPcap 3.0

販売方法

官公庁、一般企業を対象に、一般流通、システムインテグレータやセキュリティベンダ経由のパッケージ販売、および OEM 販売

サンプル出荷	2004年5月中旬
製品出荷	2004年6月
標準価格	250万円～700万円 / 1サーバ (クライアント数による)
販売目標	初年度 50セット

VISUACT センサ Ver.1.0 ユーザ様に対しては、特別価格でのご提供を予定

問い合わせ先

VISUACT-G に関するお問い合わせは、
セキュリティフライデー株式会社(0466-26-5666, sales@securityfriday.com) 佐内 / 中岡まで
ウェブサイト <http://www.securityfriday.com/jp/>

